

芝野松次郎教授略歴・主要業績



一 略 歴 一

学 歴

1972年3月 大阪外国語大学（現大阪大学外国語学部）卒業 文学士
1976年3月 関西学院大学社会学研究科修士課程修了 社会学修士
1978年4月 米国ミシガン大学 School of Social Work 修士課程卒業 MSW
1983年8月 米国シカゴ大学 School of Social Service Administration 博士課程卒業 Ph.D.

職 歴

1983年4月～1986年3月 関西学院大学社会学部専任講師
1986年4月～1992年3月 関西学院大学社会学部助教授
1992年4月～1999年3月 関西学院大学社会学部教授
1994年4月～2008年3月 関西学院大学社会学研究科博士課程前期課程指導教授
1999年4月～2008年3月 関西学院大学社会学部社会福祉学科教授
2002年4月～2008年3月 関西学院大学社会学研究科博士課程後期課程指導教授
2008年4月～現在 関西学院大学人間福祉学部社会福祉学科教授、
関西学院大学人間福祉研究科博士課程前期課程指導教授、
関西学院大学人間福祉研究科博士課程後期課程指導教授

学内職務

1990年4月～1992年3月 関西学院大学学生部副部長
2006年4月～2008年3月 関西学院大学新学部設置準備室室長
2006年4月～2016年3月 関西学院大学体育会アメリカンフットボール部部长

2008年4月～2012年3月 関西学院大学人間福祉学部学部長、
 関西学院大学評議会評議員
 2014年4月～2016年3月 関西学院大学評議会評議員
 2015年4月～現在 学校法人関西学院法人評議会評議員

－学会及び社会における活動等－

学 会

1975年3月～現在 日本行動療法学会（現日本認知・行動療法学会）会員
 編集委員（1988年～2005年）
 理事（1989年～1991年）
 1976年3月～現在 日本社会福祉学会会員
 編集委員（2001年～2015年）
 理事・編集委員長（2011年～2012年）
 1994年4月～現在 日本社会福祉実践理論学会（現日本ソーシャルワーク学会）会員
 1999年5月～現在 日本子ども家庭福祉学会会員
 編集委員（2000年～2005年）
 理事（2005年～2007年）
 副会長（2008年～2010年）
 2011年5月～2013年3月 日本社会福祉教育学校連盟理事、副理事長

社会における活動

1985年4月～現在 社団法人（現公益社団法人）家庭養護促進協会理事
 理事長（2012年～現在）
 1987年4月～現在 神戸市総合児童センター運営委員、専門委員
 1990年4月～2005年3月 特定非営利活動法人児童虐待防止協会運営委員
 1992年7月～1994年3月 大阪府精神医療審査会委員
 1994年4月～2013年3月 大阪府社会福祉審議会委員
 里親審査会会長（1998年～2013年）
 1998年4月～2012年3月 神戸市市民福祉調査会委員
 児童専門部会権利擁護部会委員長
 1999年4月～2015年3月 社会福祉法人愛和会理事
 2001年4月～2004年3月 文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会専門員、副主査
 2005年4月～2008年3月 文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会設置計画履行状況等調査委員会委員
 2008年4月～2013年3月 宝塚市こども審議会会長
 2009年4月～2013年6月 伊丹市次世代育成支援推進協議会副会長
 2009年4月～2016年3月 西宮市社会福祉審議会副会長（職務代理者）
 児童福祉専門分科会会長
 堺市里親審査会委員
 2011年4月～2013年3月 特定非営利活動法人親と子のふれあい研究会理事長
 2012年2月～現在 財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団賞審査委員
 2012年4月～現在 社会福祉法人神戸真生塾評議員
 2012年3月～現在

2013年7月～現在	神戸市子ども・子育て審議会委員長
2013年7月～現在	伊丹市子ども・子育て審議会委員長
2016年3月～現在	神戸市民福祉大学カリキュラム委員会委員長
2016年6月～現在	伊丹創生検証会議副委員長

－主要業績－

著 書

1. “A Single-Parent Intervention To Increase Parenting Skills Over Time.” *Effective Social Work Practice*. (共著) Jossey-Bass, 1982.10
2. “Treating Stuttering By Using Parental Attention And A Structured Program For Fluency.” *Effective Social Work Practice*. (共著) Jossey-Bass, 1982. 10
3. “Visual And Statistical Analysis Of Clinical Time Series Data.” *New Directions For Program Evaluation : Application For Time Series Analysis*. (共著) Jossey-Bass. 1982. 12
4. 「課題中心ケースワーク」『臨床ケースワーク』(共著) 川島書店、1986. 3
5. 「ケースワークの効果測定－臨床に必要な調査法」『臨床ケースワーク』(共著) 川島書店、1986. 3
6. 「社会福祉援助活動の課題」『社会福祉援助技術総論』(共著) ミネルヴァ書房、1990. 4
7. 「専門援助技術の最近の動向」『社会福祉援助技術総論』(共著) 川島書店、1990. 9
8. 「保健・医療・福祉ネットワークの必要性」『社会福祉論』(共著) 川島書店、1992. 4
9. 「社会福祉の援助方法」『社会福祉概論：これからの社会福祉①』(共著) 有斐閣、1995. 7
10. 「基礎理論：個別理論(4)：行動療法」『臨床心理学(第1巻)：原論・理論』(共著) 創元社、1995. 10
11. 「行動療法アプローチ」『ケースワーク(社会福祉援助技術各論I)：理論的アプローチと技法を中心に』(共著) 川島書店、1998. 3
12. 「社会福祉援助技術の効果測定と評価調査」『社会福祉援助技術』(共著) 中央法規出版、1998. 4
13. 『社会福祉援助方法：これからの社会福祉⑨』(共著) 有斐閣、1999. 4
14. 『子ども虐待ケース・マネジメント・マニュアル』(編著) 有斐閣、2001. 1
15. 「効果測定と評価」『社会福祉援助技術論II』(共著) 中央法規出版、2001. 3
16. 『社会福祉実践モデル開発の理論と実際－プロセティック・アプローチに基づく実践モデルのデザイン・アンド・ディベロップメント』(単著) 有斐閣、2002. 11
17. “Behavioral Family Treatment In Japan : Design And Development Of A Parent Training Program.” *Using Evidence In Social Work Practice : Behavioral Perspectives*. (共著) Lyceum Books, 2004. 3
18. 「課題中心アプローチ」『ソーシャルワークの実践モデル－心理社会的アプローチからナラティブまで』(共著) 川島書店、2005. 5
19. 「認知症高齢者の問題行動への対応－行動療法の立場から」『高齢者のこころのケア』(共著) 金剛出版、2006. 4
20. 「社会福祉領域における援助」『対人援助の心理学：朝倉心理学講座(第17巻)』(共著) 朝倉書店、2007. 6
21. 「相談援助のための経過観察(モニタリング)、再アセスメント、効果測定、評価の技術」『相談援助の理論と方法I』(共著) 中央法規出版、2009. 4
22. 『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』(共編著) ミネルヴァ書房、2009. 7
23. 『社会福祉学への展望』(共編著) 相川書房、2012. 10
24. 『ソーシャルワークとしての子育て支援コーディネート－子育てコンシェルジュのための実践モデル

開発』（共著）関西学院大学出版会、2013. 3

25. 『ソーシャルワーク実践モデルの D&D-プラグマティック EBP のための M-D&D』（単著）有斐閣、2015. 4
26. 「児童相談所におけるソーシャルワーク・スーパービジョン」『ソーシャルワーク・スーパービジョン論』（共著）中央法規出版、2015. 5
27. 『ソーシャルワークにおけるデザイン・アンド・ディベロップメントの軌跡』（編著）関西学院大学出版会、2018. 3

学術論文

1. 「ソーシャル・ワークの文献に見る行動療法（Behavior Modification Approach）」（単著）『青少年問題研究』第 25 号、49-61、1976. 3
2. “Development And Evaluation Of A Program Of Maximizing Maintenance Of Intervention Effects With Single Parents.”（単著）Doctoral Dissertation Submitted To The School Of Social Service Administration, The University Of Chicago, 1983. 3
3. 「ケースワークの調査法：リサーチ・マインデッド・ワーカー」（単著）『大阪市社会福祉研究』第 6 号、65-79、1983. 12（同心会社会福祉研究奨励賞）
4. 「ソーシャルワークにおける R&D [Research and Development 調査開発]」（単著）『青少年問題研究』第 33 号、65-79、1984
5. “Issues In The Statistical Analysis Of Clinical Time-Series Data.”（共著）*Social Work Research And Abstract (NASW)*. 7-12, 1984
6. 「単一事例実験計画法における評価手続き-AR モデルの臨床への応用」（単著）『関西学院大学社会学部紀要』第 52 号、33-42、1986. 3
7. 「インテークと意思決定」（単著）『ソーシャルワーク研究』Vol.16、No.1、4-11、1990
8. 「ソーシャルワーク実践における R&D の試み-0 歳児を持つ母親に対する母子相互作用スキル指導プログラムの調査開発例」（共著）『関西学院大学社会学部紀要』第 61 号、49-82、1990. 3
9. 「ソーシャルワーカーの専門的機能としてのケース・マネジメント-在宅障害児への援助実践をとおして」（共著）『関西学院大学社会学部紀要』第 63 号、571-592、1991. 3
10. 「老人の問題行動に対する行動療法」（単著）『総合リハビリテーション』第 20 巻、第 3 号、213-221、1992. 3
11. 「ソーシャルワーク DR&U における普及（Dissemination）の試み-「親と子のふれあい講座」出張講座を通して」（共著）『関西学院大学社会学部紀要』第 67 号、131-142、1993. 3
12. 「親子援助に基づく夜尿処遇パッケージ：行動療法をベースとして」（共著）『THERAPEUTIC RESEARCH』Vol.15、No.6、361-367、1994.7
13. 「米国における乳幼児オープン・アダプションの研究」（共著）『関西学院大学社会学部紀要』第 77 号、161-171、1997. 3
14. 「養護施設における早期家庭復帰援助プログラムの研究開発（R&D）-パーマネンシー保障に向けて」（共著）『ソーシャルワーク研究』Vol 23、No.4、19-29、1998. 1
15. 「老人保健施設における頻回な要求行動を示す高齢者に対する行動療法：刺激統制法とディファレンシャルアテンション法（DA 法）に基づく環境変容の効果（事例研究）」（共著）『行動療法研究』第 24 巻、第 1 号、1-14、1998. 3
16. 「児童・家庭福祉実践のイノベーション-実践モデルと実践マニュアルの研究開発について」（単著）『関西学院大学社会学部紀要』第 85 号、55-65、2000. 3
17. 「ソーシャルワークと行動療法」（単著）『こころの科学』第 99 号、59-63、2001. 9

18. 「子ども虐待ケースの援助における意思決定の分析－児童相談所の熟練した専門家に対する面接調査を通して－」(共著)『子ども虐待とネグレクト』第5巻、第1号、229-238、2003. 7
19. 「『子ども虐待対応の手引き』活用実態調査」(共著)『子ども虐待とネグレクト』第5巻、第2号、380-395、2003. 7
20. 「ソーシャルワーク研究における評価研究法－マイクロレベル実践における評価調査を中心として」(単著)『ソーシャルワーク研究』Vol.29、No.4、292-301、2003
21. 「福祉」(単著)『エビデンス・ベースト・カウンセリング：現代のエスプリ部冊』88-102、2004. 6
22. 「子ども虐待予防としてのペアレントトレーニング－「親と子のふれあい講座」の試み－」(単著)『子ども虐待とネグレクト』第6巻、第1号、90-100、2004. 5
23. 「施設ケアとファミリーソーシャルワーク」(単著)『社会福祉研究』第90号、77-87、2004. 7『リーディングス日本の社会福祉8－子ども家庭福祉』日本図書センターに掲載
24. 「エビデンスに基づくソーシャルワークの実践的理論化－アカウンタブルな実践へのプラグマティック・アプローチ」(単著)『ソーシャルワーク研究』Vol.31、No.1、20-29、2005. 9『リーディングス日本の社会福祉4－ソーシャルワークとは何か』日本図書センターに掲載
25. “Group Treatment Of Separated Parent And Child Intervention.” (共著) *Research On Social Work Practice*. Vol.15, No.6, 452-461, 2005. 11
26. 「「子どもの最善の利益」の証(エビデンス)を求めて－ソーシャルワークにおけるリサーチとプラクティスを繋ぐ」(単著)『先端社会研究』第2号、356-399、2005. 3
27. 「子ども虐待マネジメントのための実践モデル－日本的フェーズ型モデル開発・普及の試みと課題」(単著)『兵庫自治学』第11号、79-90、2005. 3
28. 「子ども虐待援助に携わる児童福祉司のための Web Site 型トレーニングツールの開発的研究－叩き台の作成とその評価」(共著)『子ども家庭福祉学』第5号、23-35、2006. 2
29. 「因子分析を用いた尺度開発手法を活用した開発的研究－被虐待児の親教育支援のためのビデオ教材の開発」(共著)『社会福祉実践理論研究』第15号、27-41、2006. 6
30. 「社会福祉実践(ソーシャルワーク)における研究方法を問う(1)」(共著)『社会福祉実践理論研究』第15号、67-89、2006. 6
31. 「里親の里子養育に対する支援ニーズと「専門里親潜在性」の分析に基づく専門里親の研修と支援のあり方についての検討」(共著)『社会福祉学』第47巻、第2号、16-29、2006. 8
32. 「児童養護施設におけるファミリーソーシャルワーカーの役割分析－エキスパートインタビューの分析を通して－」(共著)『子ども家庭福祉学』第6号、13-22、2006. 11
33. 「児童福祉施設におけるファミリー・ソーシャルワーク実践に関する研究：乳児院への実態調査の結果から」(共著)『子ども虐待とネグレクト』第9巻、第1号、25-36、2007. 4
34. 「エビデンスに基づくソーシャルワーク実践の科学科：EBSWPによる実践の理論化とM-D&Dに基づく実践モデル開発」(共著)『社会福祉実践理論研究』第17号、57-77、2008. 6
35. 「エビデンス・ベースト・ソーシャルワークの特質－量的分析、開発的研究の立場から－」(単著)『ソーシャルワーク研究』Vol.34、No.1、24-38、2008
36. 「ソーシャルワーク実践モデルにおける実践モデル開発の意義を問う」(単著)『社会福祉実践理論研究』第18号、27-36、2009. 9
37. 「ソーシャルワーク実践と理論をつなぐもの－実践モデル開発のすすめ」(単著)『ソーシャルワーク学会誌』第23巻、1-17、2011. 12
38. 「エビデンス・ベーストの社会福祉研究・実践をいかに進めるか－実践評価の課題と展望」(単著)『社会福祉学』Vol.53、No.3、96-99、2012
39. 「社会福祉系大学における人材養成の意義と課題－いかに研究と実践の成果をソーシャルワーク教育

課程に反映させるか」(単著)『社会福祉研究』第115号、21-29、2012

40. 「子育て支援総合コーディネートに必要な「力量」に関する研究」(共著)『子ども家庭福祉学』第12巻、93-105、3013

科学研究費(代表研究者分のみ)

1. 「児童福祉専門職の児童虐待対応に関する専門性向上のためのマルチメディア教育訓練教材及び電子書式の開発的研究」厚生労働科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)(課題番号:200100397A)(年度:2001-2003)代表研究者:芝野松次郎、配分総額:4250万円.
2. 「被虐待児のケアと育成を担う専門里親のニーズ把握とIT活用支援プログラムの開発的研究」萌芽研究(研究課題番号:15653039)(年度:2003-2005)代表研究者:芝野松次郎、分担研究者:木村容子(頌栄短期大学)、配分総額:360万円.
3. 「EBPとしてのファミリーソーシャルワーク実践モデルの開発的研究(M-D&D)」基盤研究B(研究課題番号:17330132)(年度:2005-2007)代表研究者:芝野松次郎、配分総額:1527万円.
4. 「ソーシャルワークとしての「子育て支援総合コーディネート」実践モデルの開発的研究」基盤研究B(研究課題番号:22330178)(年度:2010-2012)代表研究者:芝野松次郎、分担研究者:小野セレストア摩耶(滋慶医療科学大学院大学)、配分総額:1638万円.
5. 「IT活用による次世代育成支援行動計画推進評価と総合的コーディネートシステムに関する開発的研究」厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業)(課題番号:200701022B)(年度:2006-2007)代表研究者:芝野松次郎、配分総額:2032万円.